

全体構想行動計画2024-2028

資料3-1

- 前行動計画の取組期間が完了するにあたり、5年間の各協議会委員の取組状況について「基本的考え方」「前行動計画の定時の課題点（当初の課題）」「達成できた点」「今後に向けた課題」を整理

石西礁湖

自然再生全体構想行動計画

2024
|
2028

Action
01

攪乱要因の除去

基本的考え方

陸域からの環境負荷を低減させるための具体的対策を実施するとともに、対策効果の評価方法および体制を構築することに重点化を図る。

当初の課題点

赤土等流出防止対策としては、サトウキビの株出し栽培の面積が増加したものの、人手や機械の不足、継続する上で体制づくりや費用の捻出、農家への周知や地元への呼びかけを継続していく必要があることがわかりました。

排水等対策については、下水道整備率は年々増加しているものの、生活排水対策全体として、栄養塩類や化学物質の現状把握と対策を進めていく必要があります。

達成できた点

各種赤土等流出防止対策の取組が推進された結果、沖縄県による八重山地域の監視海域における2021年度の年間赤土等流出量は2011年と比較し約3割削減されるなど、状況の改善が見られました。赤土流出の少ないサトウキビの株出し栽培は、八重山では2021/2022年期中に全収穫面積の53.1%(1,127ha)を占めるに至りました。

栄養塩類については、海域の蓄積型リンや陸域のリン蓄積量などの調査研究、負荷低減の仕組みの検討などが行われ、具体的な対策の検討の場として陸と海のつながりワーキンググループが結成されました。また、2023年に石垣市が設置した「石垣市サンゴ保全庁内連携チーム」においても栄養塩対策や水質改善が主要なテーマと位置づけられました。

今後に向けた課題点

- 赤土等堆積状況の改善が求められる地域がまだ残されており、対策の推進、対策に取り組む団体の増加や活性化が求められています。
- 陸域由来の栄養塩等の海への影響を減らすため、関係機関が連携して対策を具体的に検証、実施していく必要があります。
- オニヒトデ対策について、情報集約を行い、大量発生の兆候を予測する体制を構築するとともに、大発生が起こった際の体制や実施方針を決めておく必要があります。
- 漂着ゴミ対策について、より広域的な取組のための予算確保や観光との連携が求められています。



2024年3月 石西礁湖自然再生協議会

全体構想行動計画2024-2028

- 今後5年間で委員が連携して特に重点的に取り組む事項である「**重点項目**」を設定。
- 5年後の達成を目指し、各重点項目には成果目標と取組の実施スケジュールを設定。

★重点項目1 陸域負荷の低減

★重点項目2 石西礁湖における持続可能な観光利用ガイドラインの作成と活用

★重点項目3 八重山地域の子どもたちへのサンゴ学習の推進

全体構想行動計画2024-2028

□ 重点項目1：陸域負荷の低減

目標：協議会委員が連携し、5ヵ年で陸域負荷を顕著に低減させる

主要な実施内容

海域・陸域対策部会

- ・情報集約、施策提案、関係者調整、協議会への進捗報告

学術調査部会

- ・対策立案、モニタリング手法等に関する科学的支援

普及啓発・適正利用部会

- ・科学コミュニケーション、普及啓発に関する支援

行政機関

- ・単独浄化槽から下水道への切り替え、合併浄化槽設置の推進
- ・下水道接続および合併浄化槽設置の推進(石垣市下水道課)
- ・浄化槽設置情報の共有(沖縄県八重山保健所)
- ・普及啓発
- ・下水道接続の推進、補助金活用(石垣市下水道課)
- ・単独→合併浄化槽、浄化槽の維持管理推進(沖縄県八重山保健所)
- ・モデル事業の実施、普及啓発(石垣市庁内連携チーム、環境省)
- ・家畜排泄物適正処理、耕畜連携の普及啓発(沖縄県)

研究者、学術調査部会、行政機関

- ・陸域負荷のサンゴへの影響に関する調査・研究

りくとうみWG、海域・陸域対策部会、研究者、行政機関

- ・島内での堆肥循環の課題抽出と循環システムの検討

農家、畜産農家、住民、事業者

- ・モデル事業等の実施

成果指標

下水道、浄化槽

- ・生活排水処理人口割合の増加

栄養塩の地域循環

- 畜産関係 | ・堆肥舎を整備・活用する畜産農家の戸数の増加
・堆肥センター等の堆肥生産量の増加

農業関係 | ・堆肥利用量の増加

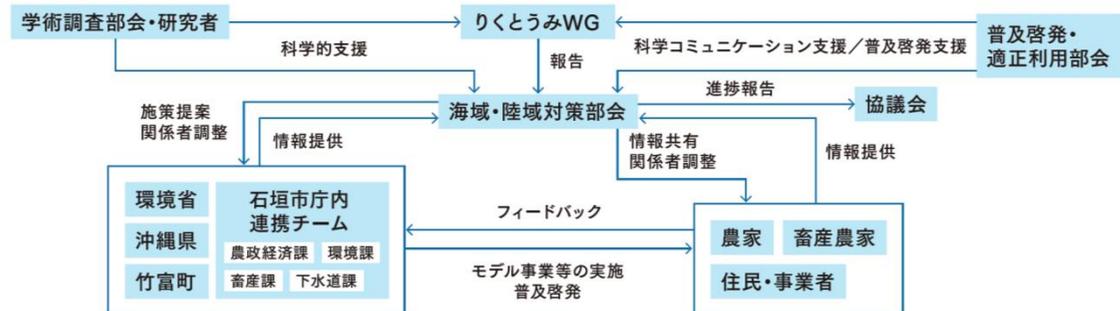
普及啓発

- ・各機関による普及啓発実施回数の増加

実施スケジュール

	2024	2025	2026	2027	2028
下水道 浄化槽	体制構築				
	接続率向上の取組				
栄養塩の 地域循環	堆肥循環モデル農地での実証				
	サンゴへの影響の調査研究				
	研究結果・実証モデルの普及				
普及啓発	普及方法検討	普及啓発の実施			

関係図



全体構想行動計画2024-2028

□重点項目2：石西礁湖における持続可能な観光利用ガイドラインの作成と活用

目標：石西礁湖全体に適用可能な海域の観光利用ガイドラインを検討し、策定を目指す

主要な実施内容

普及啓発・適正利用部会, 観光関係の委員

- ・既存事例の情報収集、石西礁湖の現状整理と課題抽出
- ・ガイドライン内容の検討及び関係者との調整
- ・石西礁湖における海域の観光利用ガイドライン作成
- ・マリンレジャー事業者への周知と普及啓発
- ・観光客への普及啓発

海域・陸域対策部会

- ・情報収集、普及啓発等に関する支援

学術調査部会

- ・ガイドラインの科学的根拠等に関する支援

行政機関, 西表財団

- ・先行事例の情報共有、地域における普及啓発支援等

石西礁湖サンゴ礁基金

- ・八重山うみしまフレンドシップを通じた活用促進

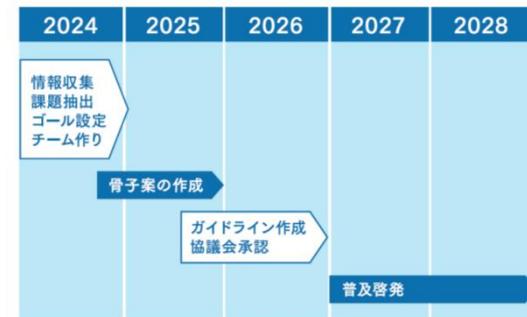
観光客, 観光事業者

- ・ガイドラインの遵守・ガイドラインの周知

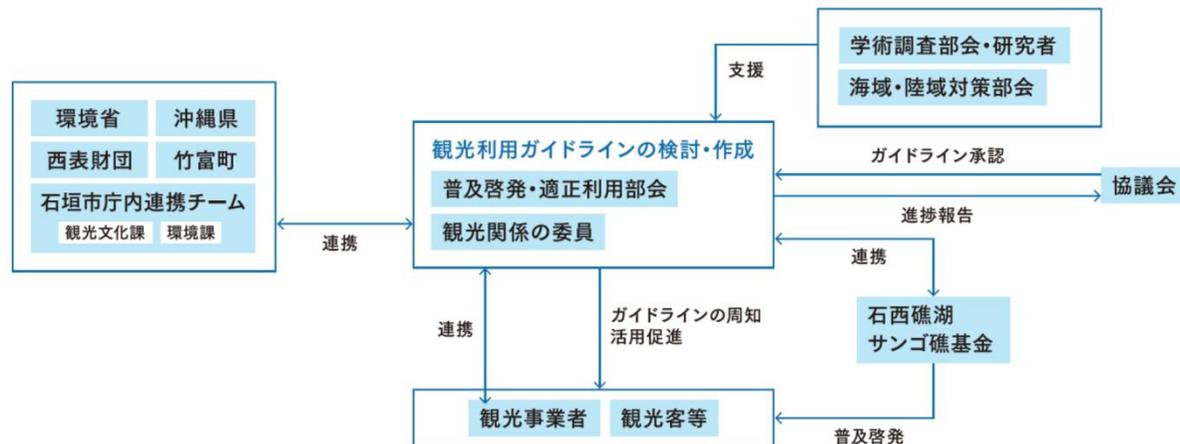
成果指標

- ・石西礁湖における海域の観光利用ガイドライン完成
- ・ガイドラインを遵守するマリンレジャー事業者数の増加
- ・マリンレジャー事業者および観光客への普及啓発回数の増加

実施スケジュール



関係図



全体構想行動計画2024-2028

□重点項目3：八重山地域の子どもたちへのサンゴ学習の推進

目標：八重山の子どもたち全員に、効果的で質の高いサンゴ学習を受けられる体制を構築する

主要な実施内容

普及啓発・適正利用部会,サンゴ学習ワーキンググループ

- ・情報収集整理と共有、施策提案、関係者調整、協議会への進捗報告

学術調査部会

- ・サンゴの生態やサンゴ礁保全に関する最新情報の提供

海域・陸域対策部会

- ・地域のサンゴ礁保全活動等に関する最新情報の提供

行政機関, 環境教育関係の委員

サンゴ学習ワーキンググループ

- ・サンゴ学習の実施
- ・サンゴ学習プログラムの改善、評価指標
- ・プログラム講師の人材育成
- ・効果検証のための評価指標の改善と展開

八重山地域の学校

- ・サンゴ学習の実践、家庭や地域への波及

成果指標

- ・八重山地域の子どもたちが、小・中・高校在籍中に少なくとも一度はサンゴ学習を受講できる機会を作る
- ・サンゴ学習を提供できる講師の増加
- ・サンゴ学習の評価指標の設定、学習効果の増大

実施スケジュール

	2024	2025	2026	2027	2028
情報収集整理	実施				
情報共有と役割分担の仕組みづくり	実施				
プログラムの改良	実施	実施	実施	実施	実施
プログラム講師の人材育成	実施	実施	実施	実施	実施
効果検証の仕組みの改善と展開	実施	実施	実施	実施	実施
サンゴ学習の提供	実施	実施	実施	実施	実施

関係図

